



# 同 風

第27号

発行日 平成26年12月31日  
機関誌命名 鵬雲斎大宗匠  
題字揮毫 納屋宗淡師  
発行所  
茶道裏千家淡交会青年部  
近畿第一ブロック  
発行人 ブロック長 竹内 裕貴  
[http://www.geocities.jp/tankokai\\_kinki1/](http://www.geocities.jp/tankokai_kinki1/)  
裏千家ホームページ  
<http://www.chakai.com/>

裏千家学生茶道研究会との合同茶会

# ご挨拶

## ブロック長挨拶

平成二十五・二十六年度ブロック長 竹内 裕貴



青年部  
新体制と  
なった初  
めの期  
を皆様の  
ご協力ご

理解のお陰でなんとか終了するこ  
とができました。ありがとうございます。

近畿第一ブロックでは新体制の  
もとその組織・運営・行事などの  
面で新たにキンキダイイチスタイ  
ルの確立を目指してその一歩を踏  
み出したわけです。

特にブロック研修会の運営を主  
管制にしたことは最も特徴的なこ  
とでした。主管青年部が行事運営  
を担い、青年部が親支部の力を借  
り又ご指導いただきながら行事を

組み立てて行く。ブロックという  
場で青年部が伸びのびと活躍し交  
流しながら互いに切磋琢磨してい  
く。持ち回りの主管制を是非定着  
させ青年部活動の結束を図り活性  
化につなげていただきたいもので  
す。

青年部は新体制のもと少しずつ  
運営を変化させ活発な活動を目指  
しています。青年部をつなぐ存在  
としてのブロックの果たす役割も  
変化しています。ブロックが青年  
部の活動の連絡・広報・交流といっ  
た側面をつなぐ存在を目指して新  
たな道のはじめたばかりです。  
是非ブロックの今後にご期待  
いただくとともに、さらなる参画  
をお願いいたします。

## 次期ブロック長挨拶

平成二十七・二十八年度ブロック長 福井 正興



茶道と  
私の出合  
いは、軽  
はずみな  
動機で友

人と入部した大学の茶道部でした。  
それが縁で淡交会青年部に入り、  
茶道と出合い、ちょうど二十年が  
経過した今、ブロック長を務めさ  
せていただくことになりました。

このチャンスが自分のステップ  
アップと思い、覚悟を持って務め  
ます。

まず竹内ブロック長が推し進め  
てこられた新たなブロック協議会  
の在り方をしっかりと継承します。

茶道と  
その上で会員増強と青年部間での  
情報共有強化を二本柱とし、それ  
ぞれの青年部が活性化するように  
力を尽くすことで、「青年部のミカ  
タ！」になりたいと考えています。

さらには、ブロックに出向いた  
だく皆様が自らの成長に繋げられ  
るよう運営したいと思っていま  
す。そのためにも、ブロック内の  
会員皆様の一層のご理解とご参画  
が必要です。何卒、平成二十七年度・  
二十八年度をよろしく願います。

# 各青年部部長挨拶

滋賀青年部 長谷川 浩



新体制へ移行後の最初の青年部長であり、また会員の大増がある中、それなりにプレッシャーを感じながらの二年間でした。親支部や青年部役員・会員のご協力の下、「お茶の青年部として」をキーワードにした活動や、分会体制の確立、内部広報の充実等に取組むことができ、何とか務めを全うできたことに感謝しております。

京都西青年部 福井 正興



新米部長ながら掲げた目標を達成させようと試行錯誤の二年間でした。とりわけ運営方法の変更など、変えて良いものと変えてはならないものとの見極めが課題でした。ブロック役員も経験し感じたのは、積極的な情報共有によって各青年部の不安を解消し、益々元気にする必要があるという事です。そのような機会が増えることを期待します。

宮津青年部 田中 吾子



不安ばかりが先に立ち、戸惑うばかりの二年前。しかし、この二年間は、部長になられたからこそ素敵な出会いをたくさんさせていただきました。感動、心の温かさ、茶道への思いなど、それぞれが私の糧となるものばかりでした。また、多くの方のご支援で、無事、二年間も務めさせていただきましたことができました。今後も日々精進し、感謝する心を忘れず、茶道を楽しんでいきたいと思っております。ありがとうございました。

奈良青年部 野村 秀和



今期は八つありました青年部が一つにまとまり、「奈良青年部」として新たなスタートとなる節目の期となりました。会員数も二百名を超えるマンモス青年部となり、連絡調整等では苦労いたしました。急に大所帯となりましたので動きが執り辛く、どのようにすれば会員の活性化に繋がるのか試行錯誤の連続でした。来期もよろしくお願いいたします。

京都南青年部 中村 正史



京都南青年部が誕生して早二年となりました。試行錯誤の連続でしたが、自分たちで企画した研修会やお茶会を通じて、役員も部員も共に楽しみ、共に学んできた二年間であったように思います。特に昨秋、清水寺で行った『清水茶会』には、三百七十名以上のお客様にお越しいただき、ひとりとりでできないことを、部員みんなの力で成し遂げたように感じました。現在、部員数も一〇〇名を越し、二回目となる大寄茶会、『秋宴茶会』に向け全力で取り組んでいるところです。

両丹青年部 坂根 功一



少年丹の青年部ですが、舞鶴と丹の国が一つになって、お互いに無かったスキルを合わせることで、今まで出来ないと思っただけであったことが、意外に簡単に出来たりしました。また創立五十周年の記念行事では、先生方や先輩方に助けられ無事に終えることが出来ました。四年間、支えていただいた多くの皆様に感謝！感謝！です。

京都東青年部 伊谷 快児



こんにちは京都東青年部部長の伊谷です。皆様のご協力ももちまして無事に二年を終えることができました。初の部長という事もあり手探りの部分も多々有りご迷惑をおかけした事もあったかも知れませんが後半は徐々にやりたい事を実現できるようになって参りました。次年度も与えられた役職を全力で取り組んで参ります。

京都北青年部 太田 裕久



近畿第二ブロックにおかれましては、青年部改革を迎え様々な混乱の中、大変なご苦労があったと存じます。当京都北青年部も同様に四つの青年部が一つになり混乱が予想されましたが、青年部員の情熱とチームワークでまるで何事も無かったかのように順調に進んでいます。茶道に対する情熱と心さえあれば何事もおそれるに足りずと言ったことが実証された二年間であったと思います。今後とも、楽しめる近畿第二ブロックであることをお祈りいたします。ありがとうございました。

但馬青年部 勝部 祐子



二つの青年部が一つになって活動を開始した二年前。どうすればスムーズな活動ができるかと試行錯誤の二年間でした。途中で部長交代という緊急事態もありましたが、だからこそ会員同士、特に役員同士の気持ちやまとまり活動を進めていくことができました。支えていただいた先生方、先輩方、そして会員のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

## 第二十六期L・T出向員に参加して

京都東青年部 小島加帆里

昨年、第二十六期L・T出向員として、全国三十人の青年部の仲間達と一年間活動をさせていただきました。全国に大事な仲間が出来たことがとても嬉しかったです。一年間で六回の研修を通して、各回テーマに沿って、みんなでデイスカッションをし、リーダーの在り方や青年部をもっと発展させるためにどうしたらいいかなど、たくさんの方の意見交換をしました。講師の方々の貴重なお話も聞け、普段経験できない事もたくさんさせていただきました。最後はみんなで作った「道」というテーマでお席を持たせてもらえ、力を合わせて頑張りました。一年を終えました。本当にありがとうございました。



# 行事報告

## 平成25年度 ブロック協議会

日時◆平成25年3月31日(日)  
場所◆ウイングス京都

竹内ブロック長の新体制になって初めての協議会でした。

二十四年度の決算、二十五年度の行事計画、予算について協議されました。

また、新体制への以降にあたり、これからのブロックのあり方について、活気ある議論が交わされました。

## 裏千家学生茶道研究会 との合同茶会『茶彩』

日時◆平成25年6月9日(日)  
場所◆高台寺 方丈・湖月庵

高台寺にて、学生の皆さんと一緒にお茶会を行いました。

『茶彩』の趣向を楽しみながら、学生の皆さんのチームワークの良さを感じた一日でした。



## 平成25年度 ブロック研修会

日時◆平成25年11月4日  
場所◆琵琶湖グランドホテル  
主管◆滋賀青年部

大津市にある琵琶湖グランドホテルにて研修会が開催されました。

滋賀支部の先生方による協賛席が設けられ、開会式後は「茶道と禮」をテーマに関根宗中先生にご講演いただきました。その後の交流昼食会では、各青年部の紹介を行うなど、楽しい雰囲気の中で交流ができました。

午後からは、お菓子作り、日本料理、茶筌づくりと3班に分かれ、先生にご指導いただく中、体験や試食を行い、有意義な一日となりました。



## 平成26年度 ブロック協議会

日時◆平成26年2月2日(日)  
場所◆ウイングス京都

二年目に入って最初の協議会でした。二十五年度の行事報告と決算、二十六年年度の行事計画、予算について協議されました。

ブロック間交流の強化等、各青年部の会員拡大の推進、学校茶道との連携、ITの活用等、二十六年年度の活動の重点についての話がありました。



講演風景

# ナショナル コンファレンス 2014

日時◆平成26年5月16日(金)～18日(日)  
場所◆国立京都国際会館

グランドプリンスホテル京都  
宗家周辺

青年部で開催されていた全国大会とサマーコンファレンスを統合し、新しく「ナショナルコンファレンス2014」として開催されました。

近畿3ブロック合同でのお席と裏千家学園のお席、二席で始まりました。

ブロック席では入口に京都西青年部 三木崇司作 踊り口に見立てた竹のアーチが。これは十六ブロックを表す十六本の竹で作られており、くぐって、お席に入る様になっていました。

お席は和親棚でのお点前、お茶碗は全国のブロックから提供されたお茶碗を使用しました。(近畿第一からは翠嵐窯の京都南青年部 中村部長作のお茶碗を使用)

二日目は各グループに分かれ、研修会を実施しました。お茶事体験、お香体験、美術館見学等、いろいろありました。その後、地元のお菓子を各人が持ち寄り、それを、グループで食べながら、自分でお茶をたてて、小御茶会をしました。いろいろと講演会がありました。が、御家元様と和紙作家堀木エリ子氏の対談、「伝統を守りながら、情熱を持って革新しなければ、発展しない。」このフレーズがずしりと心に響きました。

三日目は裏千家の兜門を潜り、平成茶室での濃茶席、家元様が全ての席に半東として迎えて頂き、大変貴重な体験をしました。三日間でしたが、学ぶ事だらけで、又他ブロックの方との交流、大変素晴らしい経験をさせていただきました。

## 1日目



## 2日目



## 裏千家学生茶道 研究会との合同茶会

日時◆平成26年6月15日(日)  
場所◆妙心寺 龍泉庵

普段非公開の妙心寺 龍泉庵にて青年部と裏千家学生茶道研究会の九回目の合同茶会をさせていただきました。テーマは「縁」。濃茶席は青年部、薄茶席は裏研が担当し、お客様をお迎えいたしました。

担当席が別々であると、なかなか接点がないのですが、今回もお互いのお水屋をお手伝いすることで、青年部と裏研との交流も深めることも出来ました。一碗のお茶を通して、裏研・青年部・お客様とのご縁を感じた一日となり、学生さんの頑張っておられるお姿は清々しく、お客様にも伝わり、和やかなお茶会になりました。



## 平成26年度 ブロック研修会

日時◆平成26年9月15日(月・祝)  
場所◆真言律宗総本山西大寺  
主管◆奈良青年部

奈良市にある真言律宗総本山である西大寺にて研修会が開催されました。

まず、七五〇年以上もの歴史を持つ大茶盛を体験。頭がすっぽり入る程の巨大な茶碗で点てた抹茶を周りの人にたすけられながらいただく、とても和やかな雰囲気でした。

その後、実技講習では、今日庵業躰金澤宗達先生をお迎えして火入灰型のご指導をいただきました。



## 但馬青年部 五十周年記念行事



平成二十五年四月六日、坐忘齋お家元様を始めご宗家の皆様にもご臨席いただき、但馬支部七〇周年、青年部五〇周年の記念行事が西村屋招月庭で行われました。あいにくの雨天でしたが、支部内はもとよりブロックや他青年部からも出席いただき、大勢のお客様をお迎えさせていただきました。

青年部の立礼席には10個の節がある青竹を五本設えました。節の間が長かったり短かったり、真っ直ぐだったり反っていたり。その一つ一つが青年部五十年を物語っているようでした。これからも青竹のように上に向かって伸びていけるよう、会員一同気持ちに合わせて進んでいきたいと思えます。



茶道裏千家淡交会  
但馬支部70周年・  
青年部50周年 記念茶会

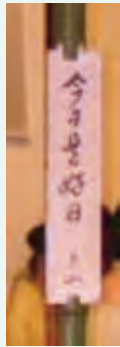
於：城崎 西村屋招月庭  
平成25年4月6日(土)

## 両丹青年部 五十周年行事

両丹支部七十周年、青年部五十周年、の記念行事が、舞鶴の赤レンガパークで十月二十六日(日)に開催され、私達、青年部は副席を担当させていただきました。

お席の設営では、OB様にも入って頂き、竹を切り、それを組んで、竹の垣を作り、秋らしいお庭を再現しました。又、立礼席の裏には、時代屏風、昔舞鶴港で盛んであった塩を運ぶ舟の絵が描かれたものを飾り、舞鶴らしさを表現、各所に青年部らしいお席になった事と思います。

坐忘齋御家元様をはじめ、来賓のお客様、両丹支部の会員、丹後、但馬からも、沢山の方に来て頂き、盛大に開催する事が出来ました。



### 『今日は好日』

昭和38年10月14日、近畿地区で3番目に『但馬青年部』が誕生する。50年前、豊岡市の鞆会館を会場に執り行われたその発会式に、当時、まだ若宗匠(40歳)だった鵬雲斎大宗匠のご臨席を賜り、記念の品として寄贈していただいた直筆の短冊。



### 編集後記

九支部二十六青年部で構成されていた近畿第一ブロックが、二十五年より九青年部となり、それまでのスタイルとは違った近畿第一ブロックのスタート。この二年の楽しい思い出を振り返っていただけよう写真を多く掲載させていただきました。

最後に本誌の発行に際し、ご多用の中、原稿の依頼をお引き受け頂いた皆様、心より感謝いたします。ありがとうございました。